

総光寺参道のキノコスギ (そうこうじさんどうのきのこすぎ)

酒田市字総光寺沢 8

(案内略図)



元和年間、総光寺二十八世儀春和尚が植えて以来、今日まで毎年刈込み、形態が茸形となったので、キノコスギと言うようになったものである。このスギは、最上川横谷地帯(古口、清川間)に自生する一品で、土湯スギ(或いは山ノ内スギ)を植栽したもので、幹径30~40cmに及ぶものがあり、樹齢おおよそ三百五十年といわれている。

昭和31年9月山形県天然記念物に指定。

〔山形県森林協会〕



松山町の保存樹
総光寺参道のキノコスギ

元和年間、総光寺二十八世儀春和尚が植えて以来、今日まで毎年刈込み形態が茸形となったので、キノコスギと言うようになったものである。このスギは最上川横谷地帯(古口、清川間)に自生する一品で、土湯スギ(或は山ノ内スギ)を植栽したもので、幹径30~40cmに及ぶものがあり、樹齢おおよそ350年といわれている。

松山町40周年記念事業 松山町

目指定名勝總光寺庭園

説 明

作庭年代 江戸時代後期
指定年月日 平成八年三月二十九日
指定面積 一七六・四二平米

總光寺は、十四世紀後半創建の禅宗寺院で、庄内松山藩酒井家の城下町であった松山町の東山麓にある。庭園は江戸時代に混雑した築山泉水庭の作庭法に基づいており、寺の歴史の発露から推定すれば、江戸時代後期の作庭と考えられる。本堂・庫裏書院から鑑賞する庭であり、自然の景観を構成する山・流・海などの要素を築山・滝・流れ・池などに代えて立体時に表現したもので優れた庭景を成している。借景として山間に中の薬師堂・山頂に母の薬師堂を置き、拝石より選擇する形をとっている。

鳥海山・月山・最上川・庄内平野・日本海の集まった景勝地にあり、自然との調和を特色とする日本庭園の好例として価値が高く貴重なものである。

平成八年十月 松山町教育委員会